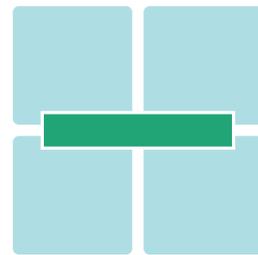


## ダブルスキンの大壁面を演出する 縦横の構造体との調和



PFG構法  
+  
テンション



ガラスのカーテンウォールの内部には、建築の構造体でもある3本の組み柱で大スパンを実現した開放的な空間が広がる。組み柱のスパン割りと合わせたことから、ダブルスキンのカーテンウォールを構成する面ガラスは横長の割り付けになり、2枚ごとに組み柱に支持する必要があった。

そこで、PFG構法による支持部材（横型バー材）でガラスを支え、横張りのテンション材を介して組み柱で支持する方法を採用した。バー材、テンション材ともに横方向に配置され、しかもテンション材をクロスさせたことで、ガラスのファサード全体にリズムカルな横のラインを浮き上がらせている。横型の金属バー材を用いる場合、ガラスの自重を支える必要があるため、支持部材には強度の高い鋳物を使用した。

### 東葛テクノプラザ(千葉県柏市)

設計——日建設計  
施工——東急・寺田JV

#### ●ガラス仕様

面ガラス(室外側)——フロート板ガラス(22ミリ)  
面ガラス(室内側)——フロート板ガラス(19ミリ)

建築の構造体でもある3本の組み柱のスパン割りに合わせて、ガラス割りも決められている(写真上)。支持部材(横型の金属バー材)でダブルスキンのガラスを支持し、クロスする横張りのテンション材を介して組み柱に力を伝える

